

一 泊発電所におけるプルサーマル導入時期と地域振興について。

泊発電所におけるプルサーマル導入時期と地域振興について数点お聞き致します。

(一) 実施時期の見通しについて

先ず、はじめに、実施時期の見通しについて伺います、先週の12日に北海道電力株式会社から報道発表のあった泊発電所3号機におけるプルサーマル導入時期に関して。

北海道電力はプルサーマルの導入について、「2010年度の導入は非常に難しい状況にある」と発表したところですが、今月に入ってプルサーマル計画に関し、新聞各社様々な見出しで報道されその内容も随分違ってきますので正確に把握する必要がありますので、北電がこうした見通しを示すに至った理由はどのようなものなのか伺います。

答弁者 資源エネルギー課長 小玉 俊宏

北電が導入時期の見通しを示すに至った理由についてであります、

北電においては、3月5日に事前了解を受けた後、国に対し、原子炉設置変更許可申請を行うとともに、フランスのMOX燃料製造会社との協議を開始するなど検討を進めてきたところ。

その過程において入手した情報により、燃料の成形加工前の準備作業や複数の顧客向けに最適な行程を組むための加工時期の調整に相応の時間を要することなどから、泊3号機へのMOX燃料装荷までには、当初想定していた以上に期間を要することが判明したとして、これまで目指していた2010年度のプルサーマル導入は、非常に難しい状況にあるとしているところ。

(二) 電気事業連合会による計画見直しについて

次に、電気事業連合会による計画見直しについて伺います、北海道電力の発表に先立ち、電気事業連合会において、プルサーマルの導入年度について、これまで2010年度までに全国に16～18基に導入を目指していたものを2015年度まで延期するというプルサーマル計画の見直しを発表しましたが、エネルギー資源の乏しい我が国の重要なエネルギー政策としてプルサーマル計画が位置づけられていますので、今般の見直しについて国はどのような見解を持っているのか伺います。

答弁者 資源エネルギー課長 小玉 俊宏

国の見解についてであります、

電気事業連合会からプルサーマル計画についての報告を受け、国においては、我が国のエネルギー政策として、核燃料サイクルを推進するとの基本方針に変更はないとした上で、プルサーマル計画が当初の予定どおりの日程で進んでいない事業者については、安全確保に万全を期し、可能な限り早期の実施に向け、一層の取組を行うよう求めるとともに、国としても、着実な実施を最大限支援することとし、立地地域をはじめ、国民に、一層の理解と協力を要請しているところ。

## (三) 核燃料サイクル交付金への影響について

次に、核燃料サイクル交付金への影響について伺います、交付にあたっては当然色々な決まり事があるのですが、プルサーマル導入時期の見直しにより、核燃料サイクル交付金の交付や地域振興に向けた取組に影響が出るものと考えますが伺います。

答弁者 資源エネルギー課長 小玉 俊宏

核燃料サイクル交付金などについてであります。この交付金は、平成20年度までにプルサーマルの実施受け入れに同意した都道府県に対し、総額60億円が交付されるものがありますが、このうち50億円については、MOX燃料使用の翌年度から交付されることとなっているところ。

このため、プルサーマルの導入時期が遅れた場合には交付金の対象となる地域振興に向けた取組に、影響が生じますことから、北電に対しては、プルサーマル開始時期の見込みをはじめ、必要な情報について、道及び関係4町村に速やかに情報提供を行うよう申し入れているところ。

## (四) 地域振興について

ただいまのご答弁では50億円についてはMOX燃料使用の翌年から交付されるということですので、使用時期が遅れると当然交付時期が遅れる事になります。地元は地方自治の運営が厳しくなってくる中、2010年の導入を目途に振興計画を作り地域振興に役立てようとする途に付いた矢先大変重大な事でありますので道としても北海道電力に対して計画通り進めるよう強く申し入れて頂きたい。

同様に、地域振興に関して伺います。今年、2月28日地元4町村から知事に対して事前了解する旨の意向が伝えられ、3月5日知事から北海道電力に対して事前了解を回答したところであり、その際に安全、危機管理、情報公開などに関し5項目地域振興などに関する事項が3項目と合わせて8項目の実施要請をしておりますが、(安全については別な場で議論させて頂く)当委員会に関わる地域振興に関してはどのような回答を得ているのか具体的な対応がなされているのか伺います。

答弁者 産業立地推進局長 木田 勇

北電による地域振興についてであります。

事前了解にあたり、道などが要請した項目につきましては、北電においては、「要請を真摯に受け止め、適切に対応する」としているところ。

事前了解に際しての要請項目につきましては、今後、北電の対応状況について何うと共に、北電や地元4町村との連携強化に努めて参る考え。

まる三ヶ月経過しているが本来なら、何らかのアクションがあつてしかりだと思つたのです。

連合委員会まで設置し、安全と振興について大議論がされたのですが、極めて重い経過があるにもかかわらず、のど元過ぎれば何とかと言う・・・、真摯に受け止め適切に対処するとしてるが、疑問です。

道に於いても、対応が遅い、知事名で出されているのですよ、

(ほっとくと3号機の時と同じように積み残しになる)

具体的に協議するのが当然と考えますので、この点は指摘をしておきます。

#### (五) 道の対応について

最後の質問にいたしますが、プルサーマル計画について、全国の各電力会社において、導入時期の見直しがなされたが、これは、九州電力をはじめMOX燃料輸送を完了するなど着実な進展が見られる一方でこれから地域理解を求めていく電力会社もあることから、原子力委員会委員長の「公知の事実とのズレを修正し納得感のあるものにすべき」との発言を受けて、透明性を高めるための見直しと承知しており、エネルギーの安定供給などの観点からその必要性については、変わりはないものと考えますが。

冒頭申しあげたように今月に入って原子力委員会の定例会議以後、プルサーマル計画の見直しについては、あつという間に進められ、立地地域は蚊帳の外という感じ、どうも釈然としない。

大変重要な問題でありますので再度伺いますが、

先ほどお聞きしたように高橋知事は、3月の事前了解に際して、「今後プルサーマル計画を進めるに当たっては、安全性を確保し、地域住民をはじめ道民の信頼感・安心感を高める」ことや「立地及び周辺地域の振興に努めること」などを北電に求めたところであるが、こうした経緯を踏まえ、今回の導入時期について厳しい見通しが示されたことについて、国、北海道電力、立地地域に対し、道はどのように対応するのか伺います。

答弁者 経済部長 渡辺 健

道の対応についてであります。

北電泊発電所3号機におけるプルサーマルの実施時期については、これまで2010年度の実施を目指すとしていたことから、今後とも実施時期に関して、その状況や経緯などを地域住民をはじめ道民に対して、丁寧に説明していただくとともに、

プルサーマル計画については、安全性の確保に取り組むことはもとより、計画の進捗状況について、正確でわかりやすい情報の提供に努めていただくよう、北電に申し入れを行ったところ。

また、道といたしましては、地元4町村と十分に連携を図りながら、核燃料サイクル交付金など各種施策を効果的に活用するとともに国に対しても、地域の実態に応じた交付金の円滑な活用が計られるよう働きかけるなどして、立地及び周辺地域の振興に取り組んでまいりたい。